

# 共立女子第二中学校

2021年度

## 入学試験問題（2回AM）

### 【 国 語 】

試験時間 50 分

### 【 注 意 】

- 1 試験開始の合図があるまで、中を見てはいけません。
- 2 問題は一〜三で、全部で12ページです。試験中によごれや不足しているページに気づいた場合は、手をあげて監督かんとくの先生を呼んでください。
- 3 解答はすべて解答用紙にはっきりと記入し、解答用紙だけを提出してください。

一、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(本文には一部改めたところがあります)

「おいしい・まずい」はコーヒーだけではなく、全ての食べ物、飲み物に共通する概念です。A 飲食物全てに共通する「おいしさ」の仕組みについて考えてみましょう。

我々が感じる「おいしさ」の中心になるのは「味」であり、それを感じるために備わっている専門の感覚が「味覚」です。味覚は口腔内の化学物質を識別、感知する「センサー」の役割を果たしており、その情報は味神経(味覚神経)という専用の神経を経て脳に伝わります。

ヒトが感じる味(味質)には、甘味、苦味、酸味、塩味、うま味の5種類の「基本味」があり、このうち、ヒトは甘味やうま味を「好ましい味」と認識します。甘味は糖類の、うま味はアミノ酸やタンパク質の味なので、自然界ではこれらの味が濃いものを食べれば、効率よく栄養を摂ることができると考えられます。一方、酸味は腐敗した食べ物や未熟な果物、苦味は有毒な植物に含まれるアルカロイドなどの自然毒を感じる「不快な味」であり、特に苦味は極めて微量で感知される鋭敏な感覚です。これらの不快な味を忌避することで、体に有害な物質を自然に避けられるようになっていると考えられています。また塩味は、程よい場合には好ましく感じますが、海水のように濃すぎる場合には不快な味として忌避されるため、適度な量の塩分やミネラルを摂取することに役立ちます。このように、味覚は自然界に存在するさまざまなものの中から、何を食べて何を食べないかを上手く選択できるよう進化してきた感覚だと考えられています。

このほか狭義の「味覚」には含めませんが、辛み(辛味)や渋み(渋味)も、広義の「味」には含まれます。これらは味神経以外で伝わる、痛覚や温冷覚に近い感覚刺激です。また味質だけではなく、味物質の濃度や持続時間、構成要素の複雑さも重要で、これがコクやキレなどを生むとされています。基本五味にこれらの複雑な要素が加わることで、総合的な「味」が形成されるのです。また総合的な「おいしさ」には、味以外の要素も重要です。特に味、香り、テクスチャー(食感、口触り)は「おいしさの三要素」とも呼ばれ、これら3つが合わさった「風味」が、「おいしさ」の中核を担っています。この他、食品の色や形状などの視覚、咀嚼音などの聴覚情報、また誰とどこで食べるかといった状況も「おいしさ」を左右します(図)。「おいしさ」は味覚を中心に、さまざま

まな感覚や情報が重なり合った複合的なものと言えます。

では、コーヒーの場合はどうでしょうか。砂糖やミルクを加えるかどうかでも随分話が変わりますが、話を単純にするため、ここからはブラックコーヒーに絞って考えます。複合的で主観的な感覚である「おいしさ」は分析が難しいのですが、それを人に伝えるときの「味ことば」からそのヒントが得られます。日本で用いられる「コーヒーの味ことば」を一般消費者の認知度の順に並べると、焙煎した／香ばしい香りと、まろやかな／すっきりした苦味、コクなどの語彙が上位にランクインします。特に「コクがある」「香ばしい」は、日本人が用いる味ことば全体でも、おいしそうと感じるトップ3に入る言葉です。これは現在の日本で「コーヒーはおいしい」と認識されていることを裏付ける、一つの証拠と言えるでしょう。

「コーヒーの味ことば」における主役の一人は、何と言っても「焙煎した」「香ばしい」という香りです。B上位に入る「香り」系の味ことばはこの二つだけで、これ以外の表現（甘い香りやフルーティなど）を使う人は少数派です。一方「味」系でコーヒーを代表する味ことばは、C苦みに関するものです。「生理的に忌避される」と言われる通り、数ある味ことばの中でも「苦い」はおいしそうなイメージから最も遠い語彙なのですが、コーヒーでは「まろやかな」「すっきりとした」という「おいしそう」な言葉が付く表現が受け入れられており、多くの人がコーヒーの苦みにおいておいしさを感じることがうかがえます。酸味に関する表現も苦みに次いで多く、これも「まろやか」「すっきり」などが付くことから、好意的に捉えられていると思われる。渋みも多くの人に認知されていますが、修飾表現は見られず、あまり良く思われていないようです。

これ以外の味質では甘味が続くものの、一般認知度は2割程度。D塩味、うま味と辛みを挙げる人はほとんどいませんでした。「おいしさの三要素」の一つであるテクスチャーも、香りや味ほど重視されないようです。液体である分、固形物に比べて食感の影響が少ないのかもしれませんが、一方で、味のEさから生まれる「コク」や、「マイルド」「芳醇」「まろやか」など全体的な印象を表す表現は非常に豊富です。「コーヒーのおいしさ」とは「香ばしさと苦みを中心に、酸味その他のさまざまな要素が渾然一体となって生まれる、Eなおいしさ」だと言えるでしょう。

〔旦部幸博『コーヒーの科学「おいしさ」はどこで生まれるのか』〕

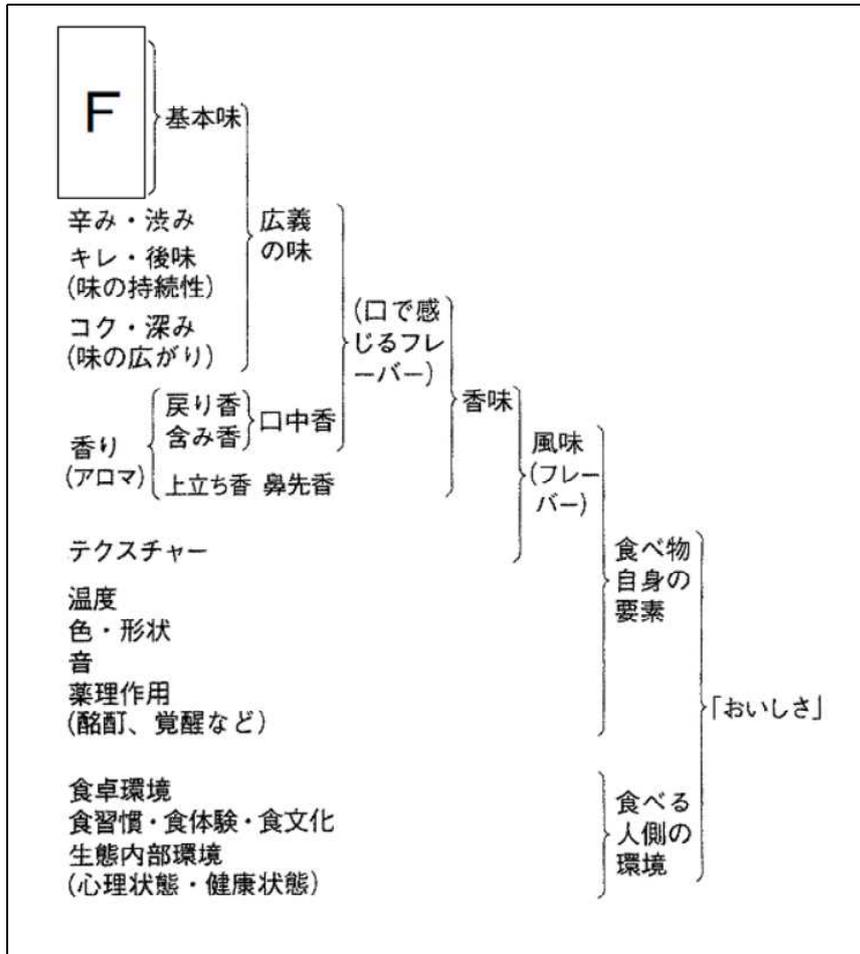


図 食べ物のおいしさを感じるしくみ

都甲潔『感性バイオセンサ：味覚と嗅覚の科学』（朝倉書店、2001年）

を元に改変

- \* 口腔 || 口からのどまでの空間になっている部分
- \* 忌避 || 嫌きらってさけること
- \* 咀嚼 || 食べ物をかみくだくこと
- \* 語彙 || 単語の集まり
- \* 渾然一体 || あらゆるものが溶とけ合あって一つになっているさま

問一 A D にあてはまる語句として適するものを選び、それぞれ記号で答えなさい。(記号は一度しか使えません)

ア また イ まずは ウ やはり エ ただし

問二 ① 「ヒトは甘味やうま味を『好ましい味』と認識します」とありますが、その理由を示す一文を本文中より探し、はじめの五字をぬき出さない。

問三 ② 「塩味は、程よい場合には好ましく感じますが、海水のように濃すぎる場合には不快な味として忌避される」とありますが、なぜ濃すぎる塩味は忌避されるのですか。解答らんに合うように、本文中より五字以内でぬき出さない。

問四 ③ 「何を食べて何を食べないかを上手く選択できる」とありますが、ヒトは「基本味」のうち、何を食べないよう選択していますか。本文中よりすべてぬき出さない。

問五 ④ 「風味」の構成に含まれているものをすべて選び、記号で答えなさい。

ア 辛み イ 食品の色 ウ 聴覚情報 エ コクやキレ

問六 ⑤ 「一つの証拠と言えるでしょう」とありますが、なぜそう言えるのですか。本文中の言葉を使って具体的に説明しなさい。

問七 E にあてはまる語を本文中より漢字二字でぬき出さない。

問八 図の F にあてはまる語として適するものを本文中より五つ探し、ぬき出さない。

問九 本文全体を内容により二つに分けると、後半はどこから始まりますか。本文中よりはじめの五字をぬき出さない。(句読点などがあれば一字とします)

二、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(本文には一部改めたところがあります)

莉紗ちゃんに見せると、「ほんとだ!」と、目をまるくした。

「この女の子の絵、ひなつちが考えて描いたの?」

「そうだよ。」

「なにかを見て、うつしたとかじゃなくて?」

「うん、自分で勝手に考えて描いた。」

「すごい、漫画家みたい。」

「だからいいすぎだつて。」

そういいながらも陽菜子の顔はほころんでしまう。自分が好きなことでほめられるのは、なんてうれしいんだろう。

「ね、ひなつちつて、プロになれそうでしょ。」

さくらちゃんがとなりでいう。

「ほんとに①そういう道は考えないの?」

莉紗ちゃんにまたきかれて、陽菜子は頭をふった。

「ストーリーとか考えたことないもん。ただ、こういう絵を描くのが好きなだけ。それに、こんなの描いたつてつまらないつて、いつもお母さんにいわれてるし。」

さくらちゃんが顔をしかめた。

②「親つて、すぐそういうこというよね。大きな夢を持ちなさいつていうわりには、自分が嫌なものとか、よくわからないものだと、すぐ反対するよね。あれつて矛盾してない?」

そのとおりでと陽菜子も思う。莉紗ちゃんが腕組みをした。

「ひなつち、こういうイラストの能力をみかけばいいのに。もったいないよ。」

そうだ、とさくらちゃんが手をたたいた。

「今日、ひなっちも、またうちに遊びにおいでよ。今日は莉紗ちゃんもくるんだよ。ここちゃんも入れて四人で遊ぼう。」

えっ、今日もまたちようど塾だ、どうしよう、と思ったのは、一瞬だった。すぐにまた、③をして電話をすればいい、と陽菜子は思った。

「うん、行く！」

陽菜子がうなずくと、莉紗ちゃんも、さくらちゃんも、「やった」とハイタッチした。

さくらちゃんの家で遊ぶのは、④とても楽しかった。

「ひなっちも同じクラスだったら、よかったのにね。」

莉紗ちゃんの言葉に、陽菜子も心からうなずいた。

「わたしもそう思う。」

「でも、今日も塾だったんじゃない？」

ここちゃんが心配そうにたずねる。

「そうなんだけど、お母さんのふりをして休みますって電話で連絡れんらくしといたから、だいじょうぶ。」

しかも今回は「用事があるのでおくれていきます」ではなく、「用事があるので休みます」といった。電話に出てきたのは、このあいだと同じ女の人のようだった。今回もうたがっているようすはぜんぜんなく、前回と同じように「わかりました。ご連絡ありがとうございます」という返事だった。

「ひなっちって意外に大胆だいたん！」

さくらちゃんがびっくりする。莉紗ちゃんも一瞬、おどろいた顔になったが、⑤笑った。

でも、ここちゃんだけは笑っていなかった。⑥心配そうな顔になった。

さくらちゃんの家から帰ると、前と同じように行動した。まずお弁当を自分の部屋の机で急いで食べ、塾のテキストをひらいた。

そしてすぐにかくせるようにして絵を描いた。

三十分ほどしてお兄ちゃんが帰ってきた音がしたが、陽菜子は自分の部屋から出なかった。するとお兄ちゃんも陽菜子に声をかけてこなかった。

お母さんの帰りは前回よりもずっとおそく、午後九時を過ぎていた。部屋にいる陽菜子を見ると、⑦おどろいた。

「あら、陽菜子の帰りのほうが早かったのね。わたしは今日は、同じパートさんの送別会だったからおそくなっちゃった。」

お母さんはつかれたようすだった。陽菜子がふつうに塾に行つて帰つてきたと思つているらしい。陽菜子はほっとした。

玄関げんかんのカギをあける。うちのなかはしんとしている。

お母さんは仕事の日じゃないけれど、どこかに出かけているらしい。

やった！今日は塾もないし、ゆつくりすごせる、とよろこんだのは一瞬だった。居間に入った陽菜子は立ちすくんだ。

お母さんがいる。⑧居間のテーブルにはおづえをつき、じっとしている。お母さんの前には、家の電話の子機がころがっている。

「……あの、ただいま。」

小声でいうと、

「おかえり。」

お母さんはぶつきらぼうに答えた。陽菜子を見なかった。

やっぱりへんだ。

⑨でも、どうしたの？ とはこわくてきけない。

自分の部屋に入り、ランドセルをしまい、手を洗う。

それから自分の家事をした。

すぐにベランダに出て洗濯物せんたくものをとりこみ、和室に持っていったたむ。衣類はぜんぶ、『洋服屋さんだたみ』で四角くきつちりとたたみ、それぞれの部屋に運んだ。そのあいだもお母さんはなにもしゃべらず、じっとすわっている。

ぜんぶ終わると、陽菜子は自分の部屋に逃げこんだ。とたん、お母さんの声がした。

「陽菜子、こっちにきなさい。」

居間にもどると、お母さんは前にすわるように指でしめした。陽菜子はそっとむかしの椅子いすにすわる。

お母さんは真顔で陽菜子を見つめた。

「塾を勝手に休んだのね。」

……やっぱりばれたんだ。陽菜子はうつむいた。

「さつき塾から電話があったの。昨日休んだ算数のプリントをとりってきてくださいって。」

お母さんは頭をふった。

「わたし、信じられなかった。陽菜子がわたしのふりをして電話をしたんでしょ。それも二回も。塾の人と話がかみあわなくてこま  
ったわ。」

「ごめんなさい。」

陽菜子は頭をさげた。

「あなたはいつのまに平気でうそをつく子になったの？ お母さんは悲しくてたまらないわ。」

あ、また『⑩』だ、と頭をさげたまま思う。\*スージーのいつていた、子どもに罪悪感を感じさせる言いかただ。

「どうしてうそをついて休んだの？ 家にいたかったの？」

「ちがう。」

陽菜子は顔をあげ、お母さんを見た。

「さくらちゃんに誘よそわれて、さくらちゃんの家遊びにいったの。」

「それなら、さくらちゃんの家遊びにいったあと、塾に行けばよかったじゃない。」

「最初はそう思ったけど、おそくなったから休んだの。」

「じゃ、お弁当は家で食べたの？」

陽菜子がうなずくと、お母さんは、はあっと大きなため息をついた。

「もう嫌になるわ。仕事と塾がかさなる日、こっちがどんなにいいそがしい思いをしてお弁当を作ってるかわかってないのね。」  
「わかってる。ごめんなさい。」

お母さんがテーブルを強くたたいた。

「わかってないわ！ お母さんがどんなに陽菜子のためを思っているか、ぜんぜんわかってないじゃないの。」

お母さんの眉が<sup>まゆ</sup>つりあがり、口がゆがむ。

怒<sup>おこ</sup>った人間の顔<sup>かほ</sup>って、なんて醜<sup>みにく</sup>いんだろう、と陽菜子は思った。怒っても人の心を動かすことはできない。⑪がわくだ  
けだ。

「なによ、その顔は！ お母さんの話をきいているの！」

お母さんはさらに大声を出した。お母さんが怒れば怒るほど、陽菜子は冷静になっていく。だいたい、わたしはあやまったけれど、  
自分だけがわるいとは思えないのだ。

「ほんとかな。」

陽菜子は口をひらいた。

「なにがよ。」

「わたしのためっていうけど、ほんとかな。わたしのためじゃなくて、お母さんのためじゃないの。お母さんの思いどおりにさせた  
いだけじゃないの。」

お母さんはあきれた表情になる。

「なにをいってるの？ わたしはぜんぶ、陽菜子のためを思ってやってるのに。」

「うそをついたのはわるいと思う。ごめんなさい。でも、遊びたかったの。最近、放課後に友達と遊んでないから、誘われたとき、  
すぐくうれしかった。」

「塾のない日に遊べばいいでしょ。」

「でも、お母さんは、塾のない日でも先に勉強しろっていうでしょ。そしたら遊びになんか行けないし、うちで絵を描いてたって、つまらないことをするなっていうじゃない。」

「それはね、<sup>⑮</sup>優先順位がまちがってるからです。だいたい、お絵描きなんて中学に入ってからゆっくりすればいいの。」

お絵描きって、なんてひどい言いかただろう。陽菜子がかつとしたとき、マンションの入り口のチャイムが鳴りひびいた。

「魚住直子『いいたいことがあります!』」

\*スージー Ⅱ この前の場面で、陽菜子が相談した相手

問一 ① 「そういう道」とありますが、その具体的な内容を十五字以内で説明しなさい。

問二 ② 「親って、すぐそういうことというよね」とありますが、「そういうこと」の内容として最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 勉強以外を否定すること      イ 努力が足りないと怒ること

ウ 家事を手伝えということ      エ 子どもの夢を否定すること

問三 ③ にあてはまる言葉を本文中より七字でぬき出しなさい。

問四 ④ く ⑦ にあてはまる語句として適するものを選び、それぞれ記号で答えなさい。(記号は一度しか使えませ      ん)

ア すぐに      イ 少し      ウ もっと      エ やっぱり

問五 ⑧ 「居間のテーブルにはおづえをつき、じっとしている」とありますが、この時のお母さんの気持ちとして最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 塾からの電話で聞いた成績を、本人にどのように伝えようか悩んでいる。

イ 娘<sup>むすめ</sup>のためを思って色々なことをしていたのに、裏切られた気がしている。

ウ パートの仕事が忙<sup>いそが</sup>しすぎて体調を崩<sup>くず</sup>し、動こうとしても動けないでいる。

エ さくらちゃんの家から、もう遊びに来ないでくれと言われ動揺<sup>どうよう</sup>している。

問六 ⑨ 「でも、どうしたの? とはこわくてきけない」のはなぜですか。本文中の語句を使って四十字以内で説明しなさい。

問七 

⑩
---

・

⑪
---

にあてはまる語の組み合わせとして最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア ⑩ 悲しい ⑪ 反発心    イ ⑩ たまらない ⑪ 同情心    ウ ⑩ たまらない ⑪ 反発心    エ ⑩ 悲しい ⑪ 同情心

問八 ⑫ 「わたしはあやまったけれど、自分だけがわるいとは思えないのだ」とありますが、それはなぜですか。最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 確かに自分ほうそをついたが、お母さんもうそをついたことがあるから。

イ 自分のやりたいことについて努力することが悪いとは全く思えないから。

ウ 母親に自分の意見を押しつけられているだけに感じているから。

エ お母さんが感情的になっていて、自分の言っていることが通じないから。

問九 ⑬ 「優先順位」とありますが、お母さんにとって優先順位が高いことと、陽菜子にとって優先順位が高いことを、それぞれ一語で答えなさい。

問十 本文の内容と合うものとして最も適するものを選び、記号で答えなさい。

ア 陽菜子は一度だけ塾をさぼったが、そのことを母に知られてしまった。

イ 友だちは全員、陽菜子がさぼってまで遊びに来たことを喜んでくれた。

ウ 陽菜子は、母親から家事を教わり得意であることを自慢じまんに思っている。

エ 陽菜子は、「お絵描き」という言い方をばかにされたように感じている。

三、次の問いに答えなさい。

問一 次の①～④のことわざの意味として適するものを選び、それぞれ記号で答えなさい。(記号は一度しか使えません)

- ① 足がつく      ② 足が出る      ③ 足を洗う      ④ 足をひっぱる

ア	発見の手がかりがみつかること	イ	よくない所業をやめること	ウ	出費が予算を上回ること
エ	歩きまわって疲れること	オ	仕事や成功をじゃますること	カ	先に進むのをためらうこと

問二 次の①～④の空らんA・Bに反対の意味になる漢字を入れて四字熟語を完成させなさい。

- ① 三    A 四    B      ②    A 名    B 実      ③    老若    A    B      ④    A 同    B 異

問三 次の①～④の漢字の部首をそれぞれ書きなさい。〔例〕祝……ネ

- ① 測      ② 痛      ③ 賃      ④ 署

問四 次の①～④の文の——線部の漢字をひらがなに直しなさい。

- ① 蝶の幼虫を観察する。      ② 時計の秒針を見る。      ③ 権利を保障する。      ④ 布が地面に垂れる。

問五 次の①～④の——線部のカタカナを漢字に直しなさい。必要ならば、送りがなをひらがなで書きなさい。

- ① 誘いをコトワル。      ② 城のテンシユカクを修理する。      ③ ギヤクテンして勝利する。      ④ 外国とドウメイを結ぶ。